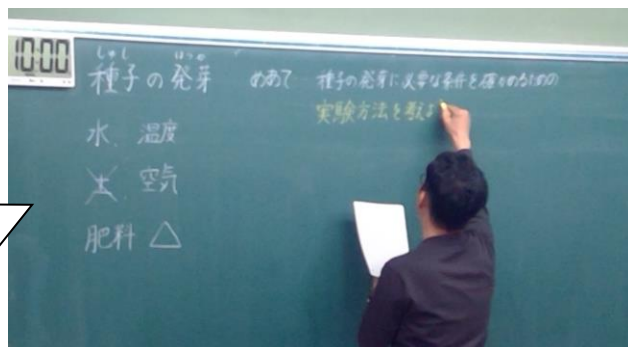


step up

2025 校内研修通信

5年生理科「植物の発芽と成長」の単元でのチャレンジ授業です。本時は、種子の発芽条件として、水が必要かどうかを調べるための実験方法について話し合いをしながら考えていく展開でした。

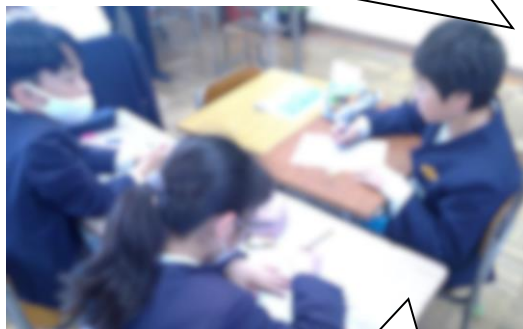
まずは、発芽の条件として、何が必要か子どもたちから意見を出しました。「水、温度、土、空気、肥料」が出ました。その中から、「土はなくても良い」「肥料はなくても良い」となりました。



班の形になり、グループで話し合いをします。話し合う内容は、

①発芽に必要なものの中で第一候補を決める②それを調べる方法を考えるです。

15分の時間設定でしたが、どのグループも盛んに話し合いを行っていました。考えていないグループがないのが素晴らしい!どのグループも、第一候補は「水」になりました。どのように実験をすれば、そのことが調べられるか、考えを伝え合う姿が見られました。



絵を描いて、自分が考えた実験方法を伝えています。



身を乗り出して、説明をする姿があります。

1つのグループでは、「えっ？中で育てるん？」「部屋の中で育てるってどういうこと？」と実験のイメージが全然ない子もいました。

こんな会話が続きます。

A「土に植えなくて育つん？」

B「だって、水があるかどうかの実験やろ。おばあちゃんの家のキッチンで、水だけで野菜育ててるよ。」

A「あー、そうか。」「もう一回整理して、どうすればいいか教えて。」

B「カップに水を入れて・・・（説明が続く）・・・それを、確かめるんじゃないかな。」

A「じゃあ、二ついるってこと？」

実験のイメージが全然なかった子も、話し合いをする中で、納得していく様子が見られました。

教科書や理科ノートを使わずに、子どもたちの話し合いの中で、「どんな実験の仕方をすれば良いのか」を考える話し合いになっていました。



グループで出た意見をみんなの前で発表しています。

発表を聞ときは、その人の方を向いて話を聞くようにしています。



授業者より

今年度から、確かな学力部会の取り組みの柱として、チャレンジ授業が始まった。この取り組みは、準備に時間をかけることも比較的少なくて済む。今回も 2 日前に通常の授業の中での話し合いが言語活動になるのではないかとひらめき、チャレンジ授業として提案した。教科書、理科ノートを使わず、簡単なワークシートを作成し、それをもとに種子の発芽条件を確かめるための実験方法を自由に考えさせることにした。時間設定は話し合い 15 分に、発表時間を 10 分程度取った。子どもたちも授業見学の先生方がいることで、緊張感もあり、真剣に課題に取り組む姿が見られた。その効果もあったのであろうが、今回の学習に対する理解度や学習意欲は高かったと思う。授業後に見学の先生方から指導助言をいただけることも自分自身にとってプラスになると思う。先生方もどんどんチャレンジ授業に取り組んでみてはと、はっぱをかけておきます。次回は 6 月に行いたいと思います。目指せ、月一チャレンジ授業!!